安全データシート

改訂日:2025年6月23日

1. 製品及び会社情報 製品名 推奨用途 会社名 住所 電話番号

クロム酸カリウム溶液(濃度調製品) 試験研究用 米山薬品工業株式会社 大阪市中央区道修町2丁目3番11号 (06)6231-3555(大阪·本社)

整理番号

(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島) BC0376S

別表1.当SDSの適用品名一覧
10%クロム酸カリウム溶液
5%クロム酸カリウム溶液
2%クロム酸カリウム溶液
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液

2. 危険有害性の要約

別表2 各クロム酸カリウム溶液濃度とGHS分類及びラベル要素対照表

GHS分類及び ラベル要素	クロム酸カリウム溶液 濃度	10%	5%	2%	1/30 mol/L
健康に対する	急性毒性(経口)	区分4			
有害性	皮膚腐食性 /皮膚刺激性	区分1	区分1	区分2	
	眼に対する重篤な 損傷性又は眼刺激性	区分1	区分1	区分2	
	皮膚感作性	区分1	区分1	区分1	
	呼吸器感作性	区分1	区分1	区分1	
	生殖細胞変異原性	区分1B	区分1B	区分1B	区分1B
	発がん性	区分1	区分1	区分1	区分1
	生殖毒性	区分1B	区分1B	区分IB	区分1B
	特定標的臟器毒性				区月10
	(単回ばく露)	区分2 (中枢神経系、血液 系、呼吸器、心血管 系、肝臓、腎臓)	区分2 (中枢神経系、血液 系、呼吸器、心血管 系、肝臓、腎臓)	区分2 (中枢神経系、血液 系、呼吸器、心血管 系、肝臓、腎臓)	
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分2 (呼吸器)	区分2 (呼吸器)	区分2 (呼吸器)	
環境に関する 有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分2	区分2	区分3	区分3
ラベル要素	水生環境有害性 長期(慢性) 絵表示又は	区分2	区分2	区分3	区分3
	シンボル 			! •	
	注意喚起語	2004847		険	
	危険有害性情報 (コードのみ)	H302 H314 H317 H318 H334 H340 H350 H360 H371 H373 H401	H314 H317 H318 H334 H340 H350 H360 H371 H373 H401	H315 H317 H319 H334 H340 H350 H360 H371 H373 H402	H340 H350 H360 H402 H412
	注意書き ^(※I) (コードのみ)				

【安全対	策】 P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P202 P273 P280
【応急措	下のでは、	P301+330+331 P302+352 P303+361+353 P304+340 P305+351+338 P308+311 P308+313 P310 P314 P333+313 P342+311 P363 P391 P362+364	P302+352 P304+340 P305+351+338 P308+311 P308+313 P314 P332+313 P333+313 P337+313 P342+311 P362+364	P308+313
【保管】	(%2) P405 (%2) P501	P405 P501	P405 P501	P405 P501

※1)表中にて、危険有害性情報と注意書きはコードのみ記載しております。各コードに割り当てられた文言は、下記をご参照ください。 ※2) SDS及びラベル記載の危険有害性情報・注意書きについて、弊社の製品管理方法, 弊社製品の化学的性質に基づき、 GHSガイダンスに従い、コードの文言を省略又は変更する事があります。

注意喚起語

危険有害性情報

飲み込むと有害(H302)

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷(H314)

皮膚刺激(H315)

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(H317)

重篤な眼の損傷(H318)

強い眼刺激(H319)

吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ(H334)

遺伝性疾患のおそれ(H340)

発がんのおそれ(H350)

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(H360)

臓器の障害のおそれ(H371)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(H373)

水生生物に毒性(H401)

水牛牛物に有害(H402)

長期継続的影響によって水生生物に毒性(H411)

長期継続的影響によって水生生物に有害(H412)

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)

取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

環境への放出を避けること。(P273)

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。(P284)

【応急措置】

飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。(P301+P312) 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

(P301+P330+P331)

皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)

皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこ と。皮膚を水【またはシャワー】で洗うこと。(P303+P361+P353)

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ ること。(P304+P340)

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着 用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 (P305+P351+P338)

ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。 (P308+P311)

ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けるこ と。(P308+P313)

直ちに医師に連絡すること。(P310)

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)

口をすすぐこと。(P330)

注意書き

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P332+P313) 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。 (P333+P313)

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313) 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。(P342+P311) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 (P362+P364)

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363) 漏出物を回収すること。(P391)

【保管】

施錠して保管すること。(P405)

【廃棄】

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に 業務委託すること。(P501)

3. 組成、成分情報 化学物質・混合物の区別 化学名 化学式又は構造式

化学物質を特定できる一般的な番号

成分及び含有量

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

混合物

クロム酸カリウム溶液

K₂CrO₄

CAS RN:7789-00-6

クロム酸カリウム溶液 100% (①クロム酸カリウム、②水)

※各製品の含有量は、別表3.濃度表を参照。

(1)-661 / 公表

別表3 濃度表

表示濃度 [※] (品名)	成分①	含有量 (重量%)	成分②	含有量 (重量%)	
10%クロム酸カリウム溶液		約9.3		約90.7	
5%クロム酸カリウム溶液	クロム酸カリウム	約4.8	水	約95.2	
2%クロム酸カリウム溶液	(CAS RN:7789-00-6)	2	(CAS RN:7732-18-5)	98	
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液		0. 65		99. 35	

^{※:}表示濃度は質量対容量比濃度です。

4. 応急措置

吸入した場合

皮膚に付着した場合

眼に入った場合

飲み込んだ場合 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 応急処置をする者の保護 医師に対する特別注意事項

5. 火災時の措置

適切な消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性 特有の消火方法

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい 姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師の診断/手当てを受ける。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

多量の水と石鹸で洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易 に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連 絡すること。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 棒状放水

消火水は汚染を引き起こすおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参 照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護 衣を着用する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れ てはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。

希釈水は腐食性及び/又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。 本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大 量の水に流入することを防止する。

漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。 該当情報なし。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気・全体換気)

安全取扱い注意事項

接触回避

保管

技術的対策 適切な保管条件

容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度等

日本産業衛生学会

ACGIH 濃度基準値

設備対策

保護具

呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

色 臭い

融占/凝固占

沸点又は初留点及び沸点範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

引火点 自然発火点 分解温度 На 動粘性率

n-オクタノール/水分配係数

蒸気圧

溶解度

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度 粒子特性

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質

危険有害な分解生成物

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用

する。

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

火気注意。

取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。

粉じん、ヒュームの吸入を避けること。

ガスの吸入を避けること。 眼、皮膚に付けないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼に入れないこと。 取り扱い後は手を洗う。 皮膚と接触しないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。 環境への放出を避けること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。

特別に技術的対策は必要としない。 冷所、換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。

ガラス

0.05mg/m³(クロムとして)

0.05 mg/m³ (クロムとして、6価クロム化合物)、0.01 mg/m³ (クロムとして、

ある種の6価クロム化合物)

TLV-TWA 0.05 mg/m³(クロムとして、水溶性クロム(VI)化合物)

8時間: 未設定 短時間: 未設定

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置す

ること。

空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。

特別な換気要求事項はない。

本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設

置したほうがよい。

適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること 適切な保護衣を着用すること。

液体

黄色~橙色

無臭

975℃ (クロム酸カリウムとして)

1000℃ (クロム酸カリウムとして)

不燃性 不燃性 不燃性 不燃性 該当情報なし。

8.5~10(50g/L 20°C)(クロム酸カリウムとして)

該当情報なし。 $65.0g/100g(7k, 25^{\circ}C)$

水に易溶。エタノールに不溶。(クロム酸カリウムとして)

該当情報なし。

0mmHg (クロム酸カリウムとして) 2.73 (クロム酸カリウムとして)

該当情報なし。 該当情報なし。

通常の取り扱いにて安定である。

該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。

11 有害性情報

急性毒性

経口 : マウスのLD50値として、180 mg/kgとの報告 (HSDB (Access on

December 2014)) に基づき、区分3とした。新たな情報源 (HSDB (Access

on December 2014)) を追加し、区分を見直した。

水溶液は、ガイダンスに従い加算式(ATEmix=100 / ((各水溶液の濃度 /

180mg/kg))により分類した。

経皮 : 該当情報なし。 吸入 : 該当情報なし

ヒトへの急性影響として、本物質適用による皮膚脱落や壊死が報告され ている (ATSDR (2012))。また、職業ばく露の報告で本物質を含む6価ク ロム化合物のばく露により潰瘍や瘢痕がみられたとの報告がある (ATSDR (2012))。その他に、具体的な試験報告ではないが、本物質を含 む6価のクロム化合物について、腐食性を持つとの記載が多くある(EU-RAR (2005)、DFG vol. 3 (1992)、産業衛生学会 許容濃度の提案理由書 (1989))。以上の結果から区分1と判断した。なお、本物質はEU DSD分類 で「Xi; R38」、EU CLP分類で「Skin Irrit. 2 H315」に分類されている。

水溶液は、ガイダンスに従い加成方式が適用できる成分から分類した。 (濃度限界:5%→区分1,1%以上5%未満→区分2)

皮膚腐食性/刺激性の分類が区分1のため、ガイダンスに基づき区分1と した。なお、本物質はEU DSD分類で「Xi; R36」、EU CLP分類で「Eye Irrit. 2 H319」に分類されている。

水溶液は、ガイダンスに従い加成方式が適用できる成分から分類した。 (濃度限界:3%→区分1,1%以上3%未満→区分2)

呼吸器:日本産業衛生学会はクロム化合物として気道感作性物質「第2群」に分 類している。この既存分類は本物質を明示していないものの、許容濃度 の提案理由書(1989)には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒 性が強いとの記載がある。また、クロム化合物は喘息を引き起こすとの記 載がある (ATSDR (2012)、EU-RAR (2005))。以上から区分1とした。

> 水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが1%以上の製品は区分1と した。

皮膚 : 本物質を含むクロム化合物は、日本産業衛生学会で皮膚感作性物質 「第1群」に分類されている(日本産業衛生学会許容濃度の勧告(2014))。 この既存分類は本物質を明示していないものの、許容濃度の提案理由 書(1989)には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒性が強いと の記載がある。また、本物質に限定された情報ではないが、6価のクロム 化合物について皮膚感作性をもつとの記載がある(EU-RAR (2005)、 ATSDR (2012)、PATTY (6th, 2012))。また、6価のクロム化合物を用いた ヒトに対するパッチテストにおいて、感作性がみられたとの報告がある (ATSDR (2012))。以上から区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で 「R43」、EU CLP分類で「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが1%以上の製品は区分1と

In vivoでは、マウス及びハムスターの小核試験で陰性結果もあるが、多く のデータで陽性、姉妹染色分体交換試験、マウス末梢血リンパ球のDNA 損傷試験で陽性、ラット肝細胞の不定期DNA合成試験で陰性である (ATSDR (2012)、CICAD 78 (2013)、ATSDR (2012))。In vitroでは、細菌の 復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞及びヒト培養細胞の染色体異常試 験で陽性である (ATSDR (2012)、IARC 49 (1990))。以上の知見及び本物 質は水溶性Cr(VI)のため、区分1Bとした。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.1%以上の製品は区分1 ELt=

IARCでグループ1 (クロム (VI) として) (IARC (1990))、ACGIHでA1 (クロム VI化合物として)(ACGIH (2001))、NTPでK (6価クロム化合物として)(NTP RoC (2013))、日本産業衛生学会で1 (クロム化合物 (6価) として) (日本産 業衛生学会 (1989)) であることから、区分1Aとした。なお、EUでは2 (EU (Access on Dec. 2014)) となっている。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.1%以上の製品は区分1 とした。

ラットを用いた経口経路(飲水)での催奇形性試験において、母動物毒性 の記載はないが生殖・発生影響(着床前および着床後胚損失の増加、吸 収胚の増加、死亡胎児の増加、胎児体重減少、内臓奇形 (腎盂拡張)、 骨格奇形 (頭蓋骨の骨化不全) の増加) がみられている (ATSDR

また、マウスを用い、妊娠中から哺育期間中に経口経路(飲水)で投与し た発生毒性試験において、雌児動物で膣開口の遅延がみられ、60日齢 での無処置の雄との交配では、妊娠数の減少、着床数の減少、生存胎 児数の減少がみられ、雄児動物では発生影響はみられていない (ATSDR (2012))_a

したがって、区分1Bとした。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.3%以上の製品は区分 1Bとした。

皮膚腐食性·刺激性

眼に対する重催な損傷・刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

牛殖細胞変異原性

発がん性

牛殖毒性

特定標的臓器・全身毒性-単回ばく露

特定標的臓器・全身毒性-反復ばく露

本物質のヒトデータは経皮適用事例のみであり、吸入経路、経口経路の データはない。1920年のデータであるが、疥癬治療の目的で使用された 本物質軟膏の皮膚適用で皮膚壊死による感染の結果死亡した12人の事 例では、皮膚の火傷、嘔吐、腎不全がみられ、解剖の結果、心臓の脂肪 変性、腎臓の腎尿細管の充血、壊死、胃粘膜の充血が認められた。本事 例ではさらに、溶血性貧血の所見に加え、重度の白血球増多症が認めら れている。また、アルブミン尿、乏尿、多尿を伴う急性腎炎が報告され、死 亡者の解剖で腎臓の充血、尿細管壊死が認められた(ATSDR(2012)、 CICAD 78 (2013))。本物質についての実験動物のデータはない。

6価クロム化合物によるヒト吸入ばく露で、気道刺激性、気道の炎症、鼻、 胸の痛み、咳、呼吸困難、チアノーゼ、腎臓障害、ヒト経口ばく露で、嘔 吐、下痢、胃腸管出血、肝臓壊死、腎臓の腎尿細管壊死、高用量の偶発 的又は意図的な摂取により、呼吸器、心血管、消化器、血液、肝臓、腎 臓、神経学的に重度の影響が報告されている(ACGIH (7th, 2001)、 CICAD 78 (2013), EHC 61 (1988), EU-RAR (2005), ATSDR (2012)),

本物質のデータはヒトの経皮適用のみであるが、本物質は6価クロム化 合物であり、6価クロム化合物の毒性知見を本物質の分類に使用するこ とが可能と考えられる。消化管の所見については、局所刺激の影響とし て採用しなかった。以上より、区分1(中枢神経系、呼吸器、心血管系、血 液系、肝臓、腎臓)とした。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが10%以上の製品は区分 1、10%未満1%以上の製品は区分2とした。

本物質を含め、クロム酸又は二クロム酸のナトリウム塩又はカリウム塩の ダスト、或いは水溶液を介して6価の水溶性クロムに反復吸入ばく露され たヒトで生じる主な毒性影響は呼吸器への影響で、鼻中隔の潰瘍及び穿 孔、気道の炎症、肺気腫、肺の線維化、慢性閉塞性気管支肺症などであ る (EU-RAR (2005)、CICAD 78 (2013)) との記述がある。実験動物では 本物質をラットに13.5 mg Cr/kg/dayで20日間強制経口投与した結果、本 物質90日ばく露換算で、区分2該当量(11.2 mg/kg/day相当)において肝 臓に脂質の蓄積、アルカリホスファターゼ、酸ホスファターゼなど肝臓中 酵素の組織局在性の変化がみられたとの報告(ATSDR(2013))がある が、この他、他の6価クロム化合物であるニクロム酸カリウムをラット、又 はマウスに9週間混餌投与試験 (EU-RAR (2005))、ニクロム酸ナトリウ ム・二水和物をラット、又はマウスに90日間飲水投与した試験(CICAD 78 (2013))では、いずれも肝臓への有害性影響はみられていない。また、ヒ トにおけるクロム化合物反復ばく露影響としての肝臓障害の記述はなく (ATSDR (2013))、上記のラットにおける肝臓影響は分類に用いない。

以上、6価クロム化合物として評価するのが適当との観点から、本物質も 区分1(呼吸器)に分類した。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが10%以上の製品は区分 1、10%未満1%以上の製品は区分2とした。 データ不足のため分類できない。

誤えん有害性

12. 環境影響情報

牛熊毒性

短期(急性): 甲殻類(ミジンコの一種)の48時間EC50=0.18mg/L(EU-RAR, 2005)であ

ることから、区分1とした。

水溶液は、ガイダンスに従い加算法(毒性乗率×10×区分1)+区分2≥ 25%、及び(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3≥25%により分 類した。

長期(慢性): 信頼性のある慢性毒性データが得られていない。

無機化合物につき環境中動態が不明であり、甲殻類(ミジンコの一種)の 48時間EC50=0.18mg/L(EU-RAR, 2005)であることから、区分1とした。

水溶液は、ガイダンスに従い加算法(毒性乗率×10×区分1)+区分2≥ 25%、及び(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3≥25%により分

類した。 該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

土壌中の移動性 オゾン層への有害性

残留性•分解性

牛熊蓄積性

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上 望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

14. 輸送上の注意

13. 廃棄上の注意

国連番号

品名(国連輸送名) 国連分類

容器等級

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

腐食性液体、n.o.s

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がな いよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 移送時にイエローカードの保持が必要。

国内規制がある場合の規制情報

1760

8 Ш 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該

陸上輸送

海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号

毒物及び劇物取締法

15. 適用法令

消防法

航空法

船舶安全法

化学物質管理促進法(PRTR法) 労働安全衛生法

各濃度の該非は、別表4.法規制該非一覧を参照してください。

特定第1種指定化学物質〔六価クロム化合物〕

当法律に定められる運送方法に従うこと。

船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空法の定めるところに従うこと。

特定化学物質特別管理物質

特定化学物質(第2類物質)[クロム酸及びその塩]

作業環境評価基準[クロム酸及びその塩]

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔クロム及びその化 合物〕

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使

用義務物質[クロム酸及びその塩]

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 劇物[クロム酸塩類及びこれを含有する製剤]

危険物に該当しない。

腐食性物質 腐食性物質

別表4. 法規制該非一覧

		PRTR法	毒物劇物 取締法	労働安全	:衛生法
表示濃度(品名)	含有量 (重量%)	特定第一種	劇物	名称等を表示 し、又は通知す べき危険物及 び有害物	特定化学物 質等 (第2類物質)
10%クロム酸カリウム溶液	約9.3	該当	該当	該当	該当
5%クロム酸カリウム溶液	約4.8	該当	該当	該当	該当
2%クロム酸カリウム溶液	2	該当	該当	該当	該当
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液	0.65	該当	該当	該当	非該当

16. その他の情報 引用文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 17423の化学商品

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではあり ません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ 等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありま せんので取り扱いには十分注意して下さい。